

復興による基盤整備事業に合わせて、集落営農等担い手を位置付けたプラン

せんだいし ろくごう

(宮城県仙台市六郷地域ほか3地域(H25.3作成、H27.3見直し))

《概要・データ》

地域の特徴	水稻を中心に、ブロックローテーションで麦・大豆等の栽培を行っている他、大消費地であることを活かした野菜の生産・販売も盛んであり、多様な形の農業が営まれている。 (農業経営体数940件、農地面積2,089ha)
中心経営体	個別経営189、法人23、集落営農組織等35
出し手となる農業者	441名《提供予定農地面積495ha》
農地集積	現状(H26)241ha(集積率11%)→目標(H32)1,541ha(集積率74%)

《特徴的な取組》

- ・ 震災後、農業用機械の流失等、農業環境への甚大な被害があったことから、復興のための基盤整備事業と併せて、経営再開マスタープランの作成を検討した。市が中心となり農作業の一元化や農地の集約等の話し合いを進め、平成25年3月に津波被災地域の4地域でプランを作成した。
- ・ 津波被災地域においては、被災地域農業復興総合支援事業等を活用して、農業用機械を失った農業者の農作業の一元化や農地の集約等を行い、集落営農を中心とした営農を行っている。
- ・ 年3回程度、定期的に中心経営体や出し手農業者の見直しを実施。

《プラン作成・見直しの経緯》

- ・ 平成24年7～11月 農業者の意向確認のため、アンケート実施。
- ・ 平成24年9～11月 プラン作成地域ごとに説明会を実施。
- ・ 平成25年3月 プラン決定。
- ・ 平成25年5月・11月、平成26年3月・6月、平成27年3月 プラン見直し。



津波被災から復旧し、
大区画の基盤整備を実施
した農地

(仙台市位置図)

